

# 広島県の地震

2025（令和7）年10月

## 目 次

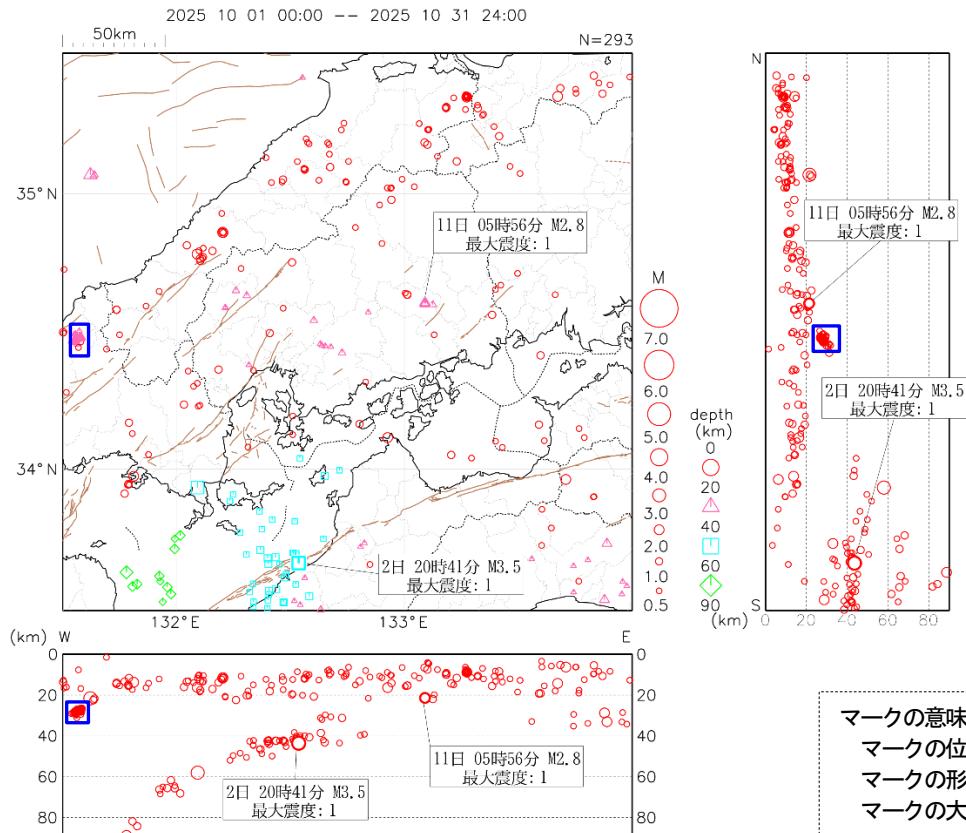
広島県及びその周辺の地震活動	1
震央分布図・断面図と地震概況	
広島県における震度1以上の地震	2
震度一覧表と震度分布図	
地震メモ 第251回	4
南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について	

広島地方気象台

# 広島県及びその周辺の地震活動

## 【震央分布図・断面図】

2025年10月1日～10月31日



左上：震央分布図 右上：南北断面図 左下：東西断面図

- ※ 震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。
- ※ 図中の茶線は地震調査研究推進本部による活断層を表しています。
- ※ 図の右上の”N”は図の範囲内における地震の回数です。

マークの意味【震央分布図・断面図】  
マークの位置：震央  
マークの形と色：震源の深さ  
マークの大きさ：M の大きさ  
※ MIは地震の規模を示すマグニチュードの略です。  
凡例 (depth) 【震央分布図】  
○ は深さ 0～20 km未満  
△ は深さ 20～40 km未満  
□ は深さ 40～60 km未満  
◇ は深さ 60～90 km未満

## 【地震概況】

この期間、広島県内で震度1以上を観測した地震は2回でした（先月は1回）。

2日20時41分 伊予灘の地震（深さ44km、M3.5）により、広島県呉市・江田島市・大崎上島町で震度1を観測したほか、愛媛県、山口県で震度1を観測しました。

11日05時56分 広島県南東部の地震（深さ21km、M2.8）により、広島県安芸高田市で震度1を観測しました。

なお、山口県北部の深さ25kmから30km程度（震央分布図・断面図青枠内）では、2025年2月から微小な地震活動が見られており、地震回数は減少してきているものの、活動は継続しています。地震活動の詳細については、気象庁HP「令和7年10月の地震活動及び火山活動について」を参照願います。

・気象庁 <https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/11b/2510kinki-chu-shikoku.pdf>

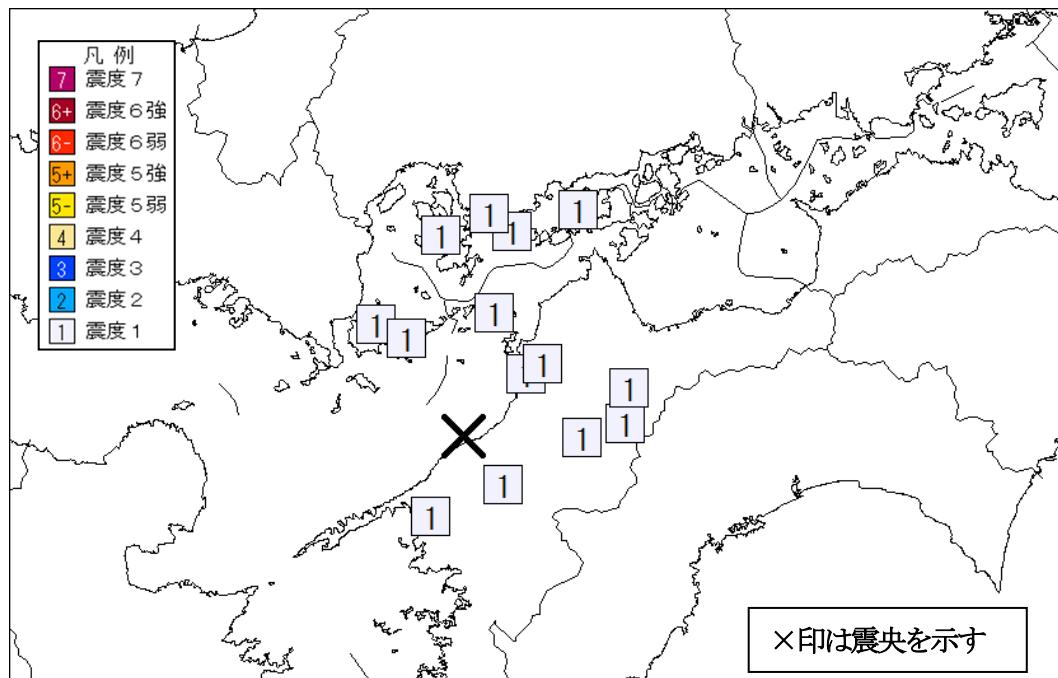
# 広島県における震度1以上の地震

## 【震度一覧表】

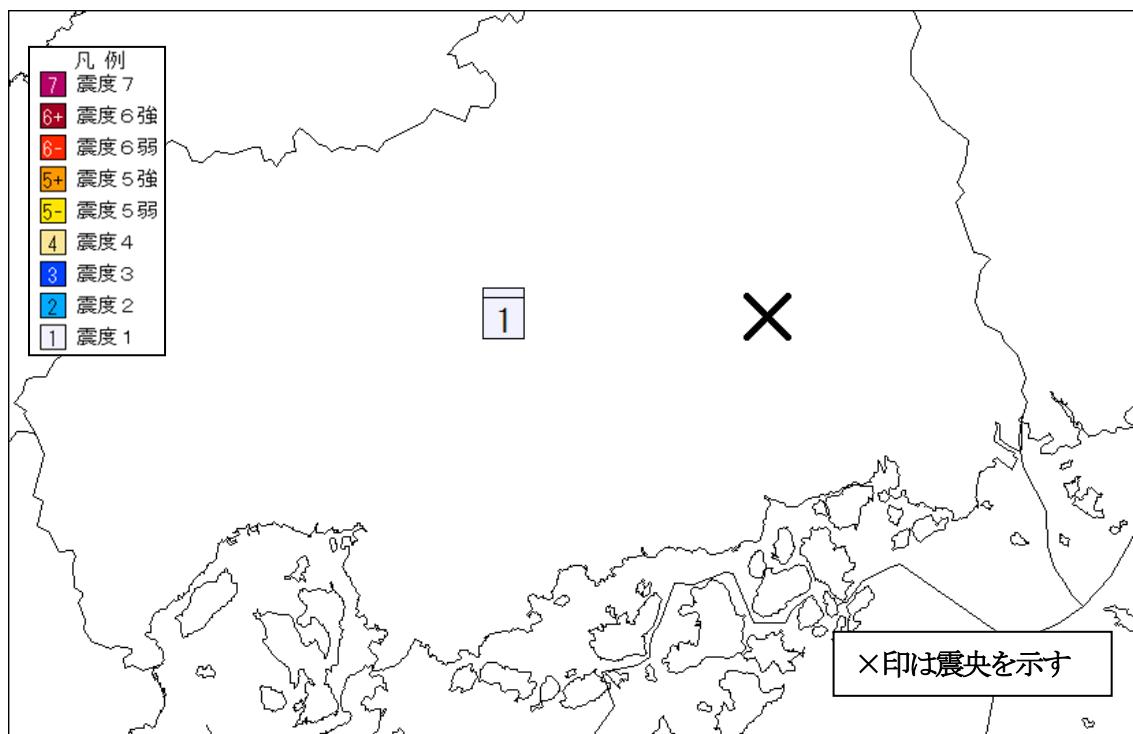
発震時刻（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	M
広島県内の各地の震度					
2025年10月02日20時41分	伊予灘	33° 39.3' N	132° 32.1' E	44km	M3.5 ※印
地点震度					
広島県 震度 1 : 呉市広*, 呉市下蒲刈町*, 江田島市大柿町*, 大崎上島町中野*					
2025年10月11日05時56分	広島県南東部	34° 36.1' N	133° 05.4' E	21km	M2.8
地点震度					
広島県 震度 1 : 安芸高田市向原町長田*, 安芸高田市向原町*					

注) 震度の地名に\*印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

## 【震度分布図】



2025年10月2日20時41分 伊予灘の地震の観測点震度分布図



2025年10月11日05時56分 広島県南東部の地震の観測点震度分布図

# 地震メモ

南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)について

第 251 回

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、これまでに、海のプレートと陸のプレートの境界に位置する海溝沿いで発生する地震（海溝型地震）について、長期評価を行い公表しています。「南海トラフの地震活動の長期評価」の第一版は2001年（平成13年）に、第二版は2013年（平成25年）に公表されています。

第二版の公表以降、全面的に改訂するような新たな調査研究の成果はないものの、一部で新たな知見が得られたことを踏まえ、地震発生確率の計算方法を見直し、9月26日に長期評価を一部改訂し公表しました。地震発生確率の見直し結果は下表のとおりです。新たな地震発生確率は、「すべり量依存BPTモデル」と「BPTモデル」の2つの値を併記することになりました。

マグニチュード 8～9の地震	計算に用いた モデル	用いたデータ	ランク (※) (2025/1/1 時点の 今後30年以内の発生確率)
第二版	時間予測モデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (80%程度)
第二版 一部改訂	すべり量依存 BPT モデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (60%～90%程度以上)
	BPT モデル	・地震発生履歴	Ⅲランク (20%～50%)

(※) ランクとは、地震の発生確率を大まかに分けた区分です。南海トラフ地震のような海溝型地震では、発生確率が高い順にⅢランク「今後30年以内の地震発生確率が26%以上」、Ⅱランク「3～26%未満」、ランク「3%未満」の3段階と、Xランク「地震発生確率不明（すぐに地震が起こることを否定できない）」に分類されています。また、Ⅲランクは「高い」、Ⅱランクは「やや高い」と表現されることもあります。

今回、地震発生確率が改訂されましたが、最新の科学的知見を取り入れた今回の評価においても、南海トラフでの地震発生確率は、従来と同じく、最も高いランクに位置づけられることが確認されました。また、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年））から約80年が経過しており、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高い状態であることに変わりはありません。引き続き、地震に対する防災対策や日頃からの備えを行うことが重要です。

今回の改訂の詳細については、地震調査研究推進本部HP「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について」（以下リンク）を参照願います。

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/subduction\\_fault/#nankai\\_t](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/#nankai_t)

## （参考リンク）

「災害時に命を守る一人ひとりの防災対策」（政府広報オンライン）

<https://www.gov-online.go.jp/article/201108/entry-8072.html>

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階

広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3953